

2.3 人工段差走行試験

2.3.1 概要

実際の道路での走行状態における車両の振動特性および路面に及ぼす影響には、走行中に車両に入力される様々な要素が影響すると想定される。そこで、車両振動特性や走行によって路面に生じる影響を等しい条件の下に簡易に相対比較できるように、条件の整った人工段差路面を走行させることで、走行車両振動特性等を把握する。具体的には、平坦な路面上に人工的に段差を設けた走路上を試験車両を走行させ、段差走行によって車両が路面に及ぼす動的な荷重を測定した。

2.3.2 試験方法

国土交通省国土技術政策総合研究所の試験走路中に図-2.3.1 に示す高さ 20mm の人工段差を設置し、走行速度 40km/h および 80km/h で段差を走行する際の動的軸重および車体各部の加速度等を測定した。測定的项目および方法は、道路走行試験の場合と同様である。写真-2.3.1 に試験の実施状況、図-2.3.1 に人工段差の概要を示す。



写真-2.3.1 人工段差走行試験の実施状況

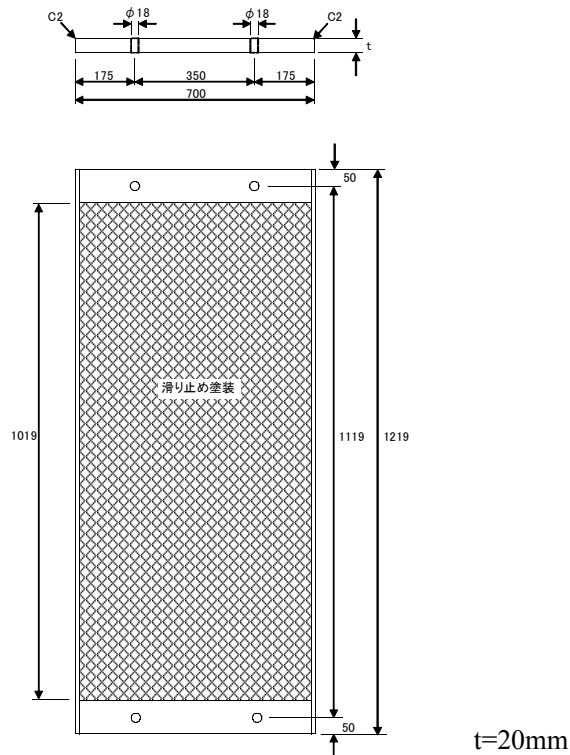


図-2.3.1 人工段差の概略(単位 mm)